

平成23年8月  
5号

# 自立からの風

だより

発行  
障害者支援施設 自立生活訓練センター  
兵庫県神戸市西区曙町1070 TEL 078-927-2727(代) FAX 078-925-9229



## 就任のごあいさつ

自立生活訓練センター部長  
岩田 宏之

新年度も早四ヶ月が経過し夜風はすでに秋を感じさせます。この度の異動により自立生活訓練センター所長として勤務いたします岩田と申します。

障害者支援施設自立生活訓練センターは、自立訓練（機能訓練と生活訓練）と施設入所支援を行い、一定期間で社会に送り出す役割を担っています。

訓練センターの特徴は、医療を担う中央病院と、障害者の職業訓練を担う能力開発センター、そして障害者を地域に送り出すための訓練センターとが有機的に連携しながら障害者を多面的に支える仕組みが整えられていることです。

さて、私自身は事業団での勤務の大半を知覚障害者施設、高齢者施設で勤務してきました。知的障害者施設では、利用者の高齢重度化が顕著に進む中、近年は利用者の施設生活のQOLの向上が更に求められ、その人らしい生活や暮らしやすさを目指し、個性を大切に個別支援計画に基づき支援が行われています。また、高齢者施設においても、そこを家としてその人らしい暮らし・生活づくりがすすめられています。

この様な中で今回、初めて身体障害者更生施設に勤務することになりましたが、訓練センターを利用される方々は、医療的リハを終えられて明確な目的を持って入所されます。事業所は利

用者の目的達成に向けて訓練施設が持つ専門性や機能を個別ニーズに基づいて提供することで、利用者が当施設を退所されたあとの生活のQOLにつながる支援が役割として求められます。つまり、今の施設生活のQOLを目指すのではなく、今後の生活をどのように実現し高めていくかの仕方を獲得する場であり、まさに通過訓練施設としての機能です。

訓練センターの利用者は、交通事故・傷病等で障害を背負い、その障害を受け容れ向き合いながら入所され訓練に取り組まれています。訓練センターでは、利用者の退所後の生活を想定した目標に対して、利用者の個別ニーズに応じた各種訓練プログラムメニューを提供しています。ただ、場合によっては、家庭や職場の人間関係を崩すケースも出てきます。まさに訓練センターは、人の人生と向き合い支える重みがあると感じているところです。

あらためて訓練センターの役割・責任をしっかりと認識し、利用者様の多様なニーズに応えるため、総合リハビリテーションセンター各部門との機能の連携を図りながら、利用者様のニーズに応じて入所から退所まで一貫した訓練を実施しながら利用者個々の支援を進めてまいりますと考えています。

皆様のご理解ならびに、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

# 平成23年度 自立生活訓練センター事業計画

## I 運営方針

○自立生活訓練課は、利用者本位のサービス提供、地域で支え合う仕組みづくり、福祉と医療の連携による事業の推進、人材育成と働きがいのある職場づくり、経営基盤の安定強化を目指した事業を展開する。

○「自律した施設運営」を目標に安定した経営基盤を確立するための運営を行う。

## II 自立生活訓練課の事業計画

### 1 利用者本位のサービス提供

利用者の人権に配慮した個別支援計画を策定し、定期的なモニタリングにて進捗状況を利用者と職員が相互に把握しながら利用者の主体性に基づいたサービス提供に努める。

### (1) 障害者専門スタッフ等によるフォローアップ研修事業(新規)

障害児者施設において、平成20年度から外部の専門スタッフの指導により障害児者施設の個別支援計画作成の考え方や記載方法の統制化、それを進める職員のリーダーシップ養成に取り組み、個別支援計画作成マニュアルの作成など、初期の目的を達成したことから、23年度は各施設において、適宜スーパーバイザーからのフォローアップを受けながら、サービス管理責任者等が個別支援計画の作成等をツールとしたOJTの強化を図るなかで、マニュアル等の実施検証に取り組み。

### (2) あつたかサポート実践運動の推進(継続)

施設の業務全般にわたる改善に対する取り組みを、施設の職場課題に応じて実施し、自己評価を補充する。

### (3) サービス評価事業(自己評価)に向けての取り組み(継続)

サービス評価基準等に基づき自己評価を年間2回実施する。1回目は、職員及び施設サービスの自己点検を行うとともに、改善に向けた取り組みを実施して、2回目はその確認を行う。

### (4) あつたかサポートの実施(全施設、随時)

施設の業務全般にわたる改善に対する取り組みを、施設の職場課題に応じて実施し、自己評価を補充する。

### (5) 専門職種連絡会の参加(継続)

利用者支援の向上等を目的として、管理栄養士・栄養士、施設看護師等の情報の共有と共通課題の解決等を図るための職種別連絡会を実施する。

### (6) 管理栄養士・栄養士連絡会

障害児者施設部会「栄養ケアマネジメントの実践(手順書の活用)」  
施設看護師連絡会  
障害児者施設部会「応急処置マニュアルの活用」、「事例検討」  
障害児者施設部会「自立の会」この取組を通じ運営に反映していく

### (7) 障害者芸術文化活動事業の推進(継続)

兵庫県障害者芸術文化活動事業部、障害者団体が主催する作品展に参加し、障害者の芸術文化活動の推進を図る。

### (8) 個性と魅力のある施設の実現(継続)

地域における「安全安心」をテーマとする地域生活の二助となる自動車運転について大きく成果を上げてきているところではあるが、更に注意力・判断力等において障害となる高次脳機能障害者の自動車運転についての訓練にも着目し行う。

### 1 自動車運転習熟訓練

2 高次脳機能障害者の生活訓練

3 個別支援プログラムの実践(定着化)

アセスメントサービス計画書3ヶ月のモニタリングという「個別支援プログラム」を定期的に実施することにより、利用者ニーズの調整と実現を行う。

### (ア) 自立訓練(機能訓練)

(イ) 自立訓練(生活訓練) 高次脳機能障害者対象

(ウ) 施設入所支援

### (10) 危機管理基本指針に基づくリスクマネジメント体制の確立(継続)

利用者への「安全安心」の確保は、事業団の目指す「利用者への質の高いサービス提供」の基盤であり、サービスの根幹であることから、平成21年度に策定した「兵庫県社会福祉事業団危機管理基本指針」に基づき、施設の安全安心総点検を実施することにも、諸課題の解決に取り組み。

### ・安全安心総点検の実施(拡充)

・危機管理委員会の開催(年3回)

・各種災害想定避難訓練及び地域との合同訓練の実施(拡充)

・危機管理専門員等による巡回指導の実施(新規)

・各種マニュアルの見直し

・地域との防災協定の締結

・福祉避難所としての登録(新規)

・普通救命講習会・市民救命士等講習会の導入(新規)

### 2 地域で支え合う仕組みづくり

総合リハビリテーションセンターの機能を有効に活用し、当施設の持つ機能を社会に還元しながら、障害者自立支援法下の事業として市町村と連携を図る。

(1) 地域ケアリハネットワークモデルの構築

1 地域移行を予定している障害者(主として身体障害者)について、ネットワークを活用した総合的な支援を実施し、必要となるサービスやシステムの開発・検証をおこなう。

2 施設等から地域暮らしを希望する障害者にハイフウェイハウスを使用し、短期間一人暮らしを利用していただく、「神戸市体験型グループホーム」事業

(2) ショートステイ事業(継続)

(3) 施設運営協議会の活用(継続)

地域の主要な機関・行政等に参加いただき、施設を知っていただき地域生活をスムーズに行えるようにすることにも、地域防災に視点を置いた検討も取り入れたい。

(4) 市町自立支援協議会等との連携強化(継続)

障害者の地域生活支援の推進の中核的役割を担う神戸市西区地域自立支援協議会に身体障害部会部長として参画し、関係機関(当事者団体・

### 3 福祉と医療の連携による事業推進

医療福祉の連携モデル事業を先導的に実施するとともに、(1)医療や福祉に関する情報を必要としている人々のために、施設を持つ専門的な情報を提供する。

(2) 家族との協働高次脳機能障害者支援プログラムの実施(拡充)

高次脳機能障害者を持たれた方にとっての地域移行については、キーパーソンとなる家族の方に焦点を当て、障害者を持たれた状態からの変化や継続的に対応の必要点を実際の対応を行う形で障害理解をいただき、スムーズな地域移行が出来るよう支援するプログラムとして、検討を含めた実施を行う。

4 人材育成と働きがいのある職場づくり

医療福祉サービスは、対人援助サービスであり、その担い手である職員一人ひとりの資質・力量がサービスの質に直結することから、計画的に有為な人材の確保・育成を行う。

(1) 事業団憲章・職員倫理綱領の普及・定着化(継続)

(2) 人材育成基本方針の推進(継続)

人材育成基本方針が策定後3年を経過したこと及び新経営10か年計画に基づく人材育成に関する新たな課題に対応するため、人材育成基本方針検討委員会において人材育成基本方針を見直し、改定することにも、次の検討項目について具体案を作成し、実施可能な内容から実施する。

(3) 人材育成基本方針に基づく研修等の実施(継続)

1 OJTの実施

2 事業団アカデミーや各種専門研修会等の参加

3 介護福祉士等の計画的養成・資格取得の推進のための受検講座の開催

(4) 研究成果発表等の発表機会の提供

合同リハ研究会兵庫リハケア

### 5 経営基盤の確立

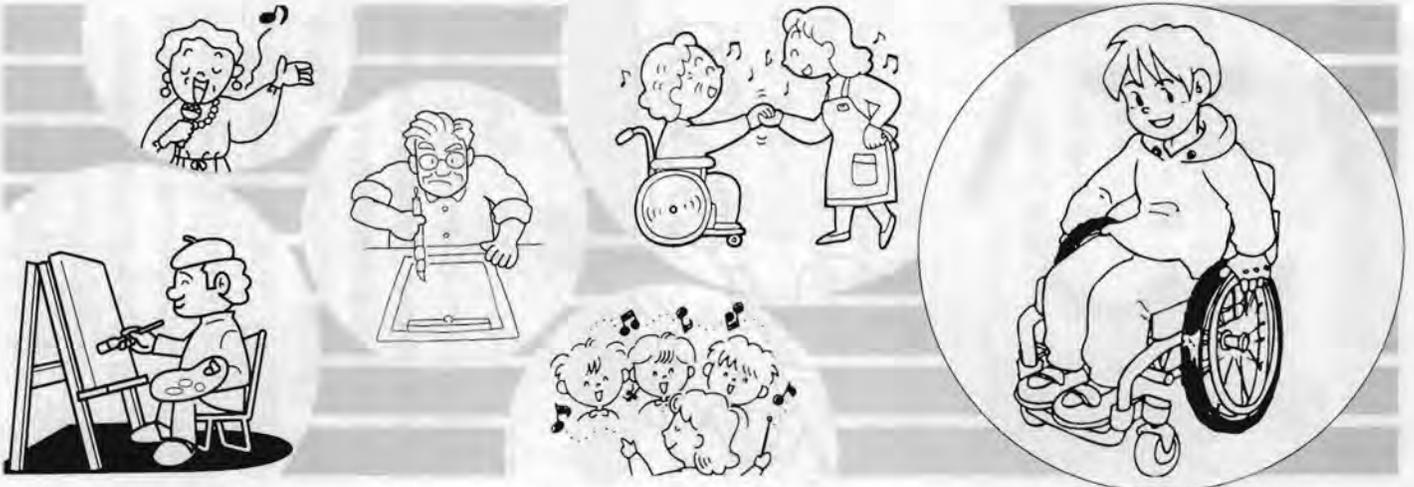
(1) 経営基盤の強化(継続)

(2) 職員の人材育成(継続)

(3) 財務体質の強化(継続)

## 機能訓練 (クラブ活動)

自立生活訓練センターでは、機能訓練・生活訓練など多くの訓練メニューがあります。各自、訓練目標をもつて社会復帰に二歩ずつ進んでいます。セラピストによる訓練、体育訓練、社会生活力プログラム、高次脳機能訓練など様々あります。今年度は、利用者本人自らモチベーションを高められるよう余暇的な要素を盛り込んだ、障害特性に合ったプログラム(クラブ活動)を実施し、円滑な機能改善を推進し、利用者の自主性及び主体性(エンパワメント)の向上につながる内容を検討しています。内容は各症状にあわせて、自ら選択できるように、「車いすダンス」「書道」「絵画」「カラオケ」「陶芸」「合唱」「軽音楽」などを検討しています。クラブ活動を通じて、訓練生活、また退所後の生活へ少しでもモチベーションの向上に繋がるように支援していきたいと考えています。



## 家族との協働 高次脳機能障害者 支援プログラム

今年度の新たな事業として、単身生活のシミュレーションができる居室(ハーフウェイハウス)を利用した「家族との協働高次脳機能障害者支援プログラム」を実施することになりました。施設内ハーフウェイハウスを宿泊または日帰りで利用し、家族の見守りの下で課題を遂行する中で、本人の障害特性や訓練課題を浮かび上げさせ、作業療法士や支援員が解説を行い、利用者本人が抱える高次脳機能障害について家族が正しく理解できるようにします。また、職員のアドバイスを通して家族の支援力を高めていきます。例えば、ハーフウェイハウスを起点として本人が家族と一緒に買い物に行き、調理に必要な食材を買い揃え、同ハウス内のキッチンでレシピに沿った調理行動を行ってもらいながら、一連の行動が適切に行えるかを家族に確認してもらいます。

本人の行動について理解できないという家族の疑問には、高次脳機能障害の症状として丁寧に説明を行い、家族が十分に理解できるようにします。その上で、職員からのアドバイスを取り入れ、その場で本人への支援を行ってもらい支援の効果を感じてもらうようにします。この事業を通して、職員と家族が利用者への効果的な支援方法について相談・検討を重ね、家族との連携を自然な形で強化し、利用者が安心して家庭復帰できるよう進めていきたいと考えます。



## 補助犬について

皆さん、補助犬（盲導犬、介助犬及び聴導犬）のことを知っていますか？兵庫県社会福祉事業団（自立生活訓練センター）では、西日本で唯一、介助犬、聴導犬の認定機関として関わっています。昨年度は平成22年5月10日に介助犬ロータスが九州第2号（福岡県第1号）の介助犬として認定しました。

身体障害者補助犬法は平成14年（2002年）10月1日に施行されました。来年で10年を迎えます。平成23年7月1日現在、盲導犬は1,067頭、介助犬は53頭、聴導犬は30頭が活躍しています。兵庫県は全国でも補助犬の数が多いため、盲導犬は56頭、介助犬は5頭、聴導犬1頭が活躍しています。

介助犬の実情を少し考えたいと思います。補助犬法施行後、介助犬は全国で80頭の犬が認定されました。しかし、様々な事情により、27頭は引退しました。寿命の短い犬の場合、介助犬として活

動する期間が短いのが現状です。ユーザーの中には1頭目は引退して、2頭目の介助犬が活躍している場合もあります。

認定機関としては、今後、多くの方に補助犬利用をしていただくために、補助犬の利用について周知することが責務と考えています。補助犬を希望される方は、補助犬を通じてよりよいサービスが提供でき、補助犬とともに住みよい社会になるよう願っています。



## 自動車運転

### 評価・訓練

当施設の重点事業の一つとして、施設内の自動車運転訓練施設（教習コース）を使用し運転操作能力の評価を行う「試乗適性評価」と、路上教習を中心として運転の実用性を高める「習熟訓練」を実施しています。

特色としては、まず、小野自動車学校との業務提携の下で、現任教官による指導が受けられること、次に、脊椎損傷、左・右片麻痺など障害特性に合わせた改造車を使用できること。さらに、習熟訓練終了後は、自家用車の改造に関するアドバイスや改造した自家用車を持ち込み、追加訓練を行い、例えば、自宅から会社までの通勤ルートをとらざる、実用的な訓練も可能であることが挙げられます。

数年前から、当施設入所利用者以外で、地域（兵庫県内のみならず大阪・京都・和歌山など近畿圏内）で暮らす障害のある人からも、自動車運転の評価や訓練への希望が多く寄せられ、評価・訓練の対象

を拡げてきました。最近では、リハビリ病院入院中の患者様が、退院後の生活の検討のために、「試乗適性評価」を希望されるケースが増加しています。

障害者自立支援法の下では、身体・知的・精神という障害種別を問わず、例えば、身体の麻痺が殆どない高次脳機能障害者も施設の利用対象となり、さらに、身辺が自立している場合は、当施設に入所せず、自宅から通いで自動車運転の評価・訓練のみを受けたいとの問い合わせが寄せられるようになりました。

自動車運転を通して生活の幅が広がり、通勤や買い物などの際の移動手段としては大変便利である反面、常に危険と隣り合わせにあります。そのことを意識しつつ二人でも多くの人の生活の一助になるよう、今後も評価・訓練に携わっていきたく考えています。



### 訓練センターでの生活

利用者 垣谷 円香

私は、2年前脳出血で倒れ右片麻痺になりました。美容師になるために専門学校を卒業し働きたしたばかりの時でした。右手が不自由になり、上手く話すことも出来なくなってしまう不安な入院生活を送っていました。

その時に大好きな車の運転がもう一度出来るようになる場所があると聞き平成22年2月22日に訓練センターに入りました。

訓練センターに入所した当初は歩行も不安定で体力もなく高次脳の影響も大きく自動車運転ま

では遠い道のりだと知りませんでした。

しかし、体力作りのためフリーウォーキングで歩行訓練を頑張ったり、仲間とのコミュニケーションを取ることで言葉をとりもどしたりすることができました。公共交通機関利用のため所外訓練では、大久保神戸・三宮に行けるようになりました。

そして1年後、自動車習熟訓練が受けられることになりやっと目標に近づくことが出来たと思えました。緊張する中で久しぶりにハンドルを握れて嬉しかったです。習熟

### 感謝

元利用者 山口 和也

僕は京都の養護学校を卒業してから、すぐ訓練課にお世話になりました。実家が田舎だったことと、施設の生活が長かったので、何をやるにも初めての経験ばかりでした。

プログラムでは、体育訓練(電動車いすの操作及び、手動の車いす操作)、理学療法、作業療法、所外訓練、学習、ハーフウェイハウスでの調理などに取り組みしました。

中でも所外訓練によって自分の行動範囲が格段に広がりました。今では電車やバスを利用して、大阪

や京都に行ったりしています。

訓練課に入所されている方は、プログラム以外でも人知れず自主トレを毎日毎日淡々とされている方が多く本当に頭が下がると同時に自分にとって大きな励みになりました。

また、目標に向かう姿勢を見てみると、障害を持ってどう生きるかを自分自身もつと考えなければならぬなと感じました。

僕は退所の時期が間近になってもまだ、今後の生活基盤が決まっ

訓練終了後すぐに自分の車を改造し週末に自宅で運転できるようにになりました。

それともうひとつ入所時は考えもしなかった就職を次の目標にすることができ、パソコン技術の習得のため能開を利用しワードやエクセルを勉強しました。

そして今、吉備高原職業リハビリテーションセンターを受験することになりました。訓練センターに来て1年が過ぎいろんな事が出来るようになり、新たな目標に向かえることを嬉しく思っています。これからも訓練を頑張って就職を目指します。

ていませんでした。もちろん一人暮らしをしたという気持ちにはありましたが、親から猛反対されて「実家に帰って来てほしい」と強く言われました。しかし、せっかく神戸に出てきたのに実家に帰ってしまったのは何の意味もないと思ひ、一人暮らしのお金をためるために、入所型の施設を探そうと思ひ、神戸・大阪・京都・計20あまりの施設に片っ端から電話をかけました。でも、どこ

の施設も定員がいっぱいで入所することができませんでした。そんな時に担当のスタッフさんたちも一度背中を押してくれて全員で、親を粘り強く説得してくださいま



本人提供



本人提供

した。そのおかげで、なんとか一人暮らしにこぎつけることができました。今こうして僕があるのは本当にたくさんの方々のおかげです。これからも感謝の気持ちを忘れず、感謝を何かの形で還元できればと思います。

# お知らせ

たまつあけぼの障害者地域生活支援センター  
チャレンジ事業(体験型グループホーム)

## 体験型グループホームってこんなところですよ (自立生活訓練センター内居室)



▲居室



▲トイレ・洗面・浴室



▲居室入口

### 神戸市体験型グループホーム事業のご案内 (身体障害者の方対象)

#### 「神戸市体験型グループホーム(身体障害者の方対象)」って?

身体に障害のある方が、総合リハビリテーションセンターにある自立生活訓練センター内の居室を利用して単身生活体験ができます。

#### どんなことをするの?

1. 今後の生活のご希望や、体験型グループホーム(自立生活訓練センター内居室)を利用することについて、あなたのお気持ちをうかがいます。
2. 体験型グループホーム(自立生活訓練センター内居室)を見学します。
3. 体験型グループホーム(自立生活訓練センター内居室)に体験宿泊

**対象者** 神戸市に住所のある方

#### 費用について

宿泊費:一泊700円(共益費)、食費は除く  
食事については、自分で材料を購入し、作ることもできます。  
又施設内の食堂で食べることもできます。  
(朝食200円・夕食500円)

**利用できる日数** 年間50日まで

#### お問い合わせは

たまつあけぼの障害者地域生活支援センター(鎌田)

Tel:078-927-4171

Fax:078-927-4172

たにがみ障害者地域生活支援センター(三木)

Tel:078-582-4431

Fax:078-582-4432

# 新任職員紹介



支援員 能勢史朗

この度、自立生活訓練センターに着任しました能勢史朗です。

これまで、知的障害者施設にて、生活支援を中心とした業務に携わっていました。今回は、身体障害者や高次脳機能障害が主な対象者となり、業務内容も、自立に向けた訓練などで環境も変わりましたが、又、心機一転勤めたいと思います。どうか、よろしくお願い致します。



支援員 新土 泉

この4月から自立生活訓練センターで、支援員として勤務しております。

ここに来るまでは児童に関わる仕事をしており、全く違う分野の業務内容であったため、何の知識も経験も無い状態からのスタートでした。至らない所が多々あると思いますが、自分の持ち味が活かせるよう頑張りたいと思いますので、よろしく申し上げます。



作業療法士 木村 貴子

4月にリハビリ中央病院から異動してきました。始めは戸惑うことも多くありましたが、徐々に慣れてきたところ

です。一人ひとりの利用者さんの目標に向かって一緒に悩み考え、達成する喜びを分かち合えるように頑張っていきます。どうぞよろしくお願い致します。



作業療法士 本多 伸行

4月より、自立生活訓練課でOTとして働かせていただいております。

病院との違いに加え、OTの支援の広さ・深さの必要性が身にしみている毎日です。スタッフも少ない中、自己の責任と信頼が欠かせない職場です。一人前の療法士となれるように、今後もよろしくお願い致します。



看護師 下村 春美

4月から総合リハ訪問看護ステーションから異動になり、自立に配属となりました。

以前、中央病院に勤務しており一度退職し、再就職しました。新人と言っても、年齢は皆さんより少し多いです。利用者と共に自分の体調管理にも、気をつけていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



支援員 安井 俊輔

自立生活訓練センター3階の支援員として4月から勤務しています。

勤務を始めて3か月が経過し、職場の雰囲気や利用者の皆さんと交流することにも慣れてきました。マイペースな性格でこれからもご迷惑をかけることもあると思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。



支援員 橋口 喜久子

4月より、自立生活訓練センター2階で支援員として働くことになりました。

福祉の仕事は全く経験がありませんが、一つずつ確実に身につけていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



支援員 浅山 彩子

4月より勤務しておりますが、まだまだ分からない事がたくさんあり、日々勉強させてもらっています。

利用者の方の退所後の生活を常に考えながら、支援していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



管理栄養士 網中 京子

5月から管理栄養士として勤務しております網中です。

私は人とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思っております。利用者の方との交流を大切にし、栄養面でのサポートをしていきたいです。よろしくお願い致します。



# 行事報告のじぎくスポーツ祭

## 第5回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会

### 「車いす使用者の部」

平成23年4月29日(祝・金)第5回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「車いす使用者の部」が、ユニバー記念競技場(補助競技場)で開催され、訓練課利用者5名、あけぼのの家族利用者4名の計9名の合同チームを結成し参加しました。50mソフトボール投げ・フライングディスク等の競技があり、日頃の練習の成果を出す良い機会となりました。また訓練課OBの姿も多数見られ、久々の再会に喜び、また現役訓練生として闘志を燃やす姿も見られ、それぞれが思いを胸に戦いました。本大会は、10月に山口県で開催される第11回全国障害者スポーツ大会(おいでませ！山口大会)の選考も兼ねる大会となりました。今年も、惜しくも選考から外れる結果となりましたが、来年こそは訓練課から1人でも多くの方が全国大会で戦う姿を見せて欲しいと思います。



### 今後の行事予定

**9/25**  
第23回全国車いすマラソン大会

**10/27**  
リハビリスポーツ祭

### 平成22年度 退所後の転帰先

(平成22年4月1日から平成23年3月31日)

就職(復職・自営業)	8名
他施設移籍	6名
家庭復帰	57名
進学(訓練校・復学含む)	6名
その他	5名
計	82名

### 編集後記

暑い日々が続いていますが暑さ対策や体調管理を行えていますか。  
訓練センターでは暑い夏でも訓練に励む毎日です。今年も熱中症対策として、外での訓練を午後から午前中にプログラムの変更を行い取り組んでいます。恒例の親睦会やセンター盆踊りや篠山マラソン等の行事が盛りだくさん。次回の「自立の風だより」で紹介したいと考えています。楽しみにしてください。

